

編集・発行：福島県いわき農林事務所農業振興普及部

農業振興課 (0246) 24-6160 地域農業推進課 24-6162

経営支援課 24-6161

FAX (0246) 24-6196 E-mail : shinkouhukyuu.af07@pref.fukushima.lg.jp

## 新たなふくしまの未来を拓く園芸復興プロジェクト ～ 日本なし～

平成25年度から展開している「新たなふくしまの未来を拓く園芸復興プロジェクト」の第3弾。今回は日本なしの取組みについて紹介します。

いわきの梨は、日照時間が長く温暖であるいわき市北部の丘陵地を中心に生産されており、「サンシャインいわき梨」の名の通り、いわきの太陽の恵みを十分に受け甘く育ちます。

しかし、生産者の高齢化や後継者不足のため、栽培面積はピーク時の約128haから現在約40haに縮小しています。

そこで、生産基盤と販売の強化を図るため、産地一体となって以下の活動に取り組んでいます。

### 【風評払拭】

いわき農産物マスコットキャラクター（アグリ☆ファイブ）の「なしポチ」による、いわき梨のPRと消費者交流を行っています。

### 【担い手の育成】

JAいわき市梨部会の「梨栽培研究会」は、休日に勉強会を開催し、他産業に仕事を持つ梨後継者や働く女性の技術向上を後押ししています。

### 【改植】

老木化した梨園地の若返りを図るため、大苗を養成し、収量回復までの年数短縮（12年→5年）を目指しています。

7月には梨新規作付説明会を開催しました。梨を栽培してみたい方は、お近くのJAや農林事務所へぜひご相談ください。



サンシャインいわき梨



なしポチの消費者交流



梨栽培研究会の活動

# 野生鳥獣から農作物を守りましょう！

水稻を中心にイノシシによる食害や掘起しが発生しています。

いわき市は平成 21 年に鳥獣被害防止計画を作成し対策を進めていますが、電気柵による被害防止対策の普及の中で、いくつかの課題が見えてきました。

## 【対策が遅れる地域・農地の被害が拡大】

被害に悩まされてきた中山間地域では、中山間地域直接支払制度等の活用により、電気柵の導入と維持管理に集落ぐるみで取り組んでいます。一方、最近取り組みを開始した地域は対策が一部に限られ、残りの地域の被害拡大が見られます。

## 【市街地への出没が増加】

最近、学校や宅地付近のイノシシ出没が確認されています。イノシシは山を好みません。集落付近の藪などに生息し、日中の気温が高い時間帯を避け、夕方から夜間にエサを求めて移動します。突然イノシシに遭遇した場合、怪我をする恐れがあることから、集落の周囲にイノシシの生息場所を作らない、積極的な環境整備が必要です。

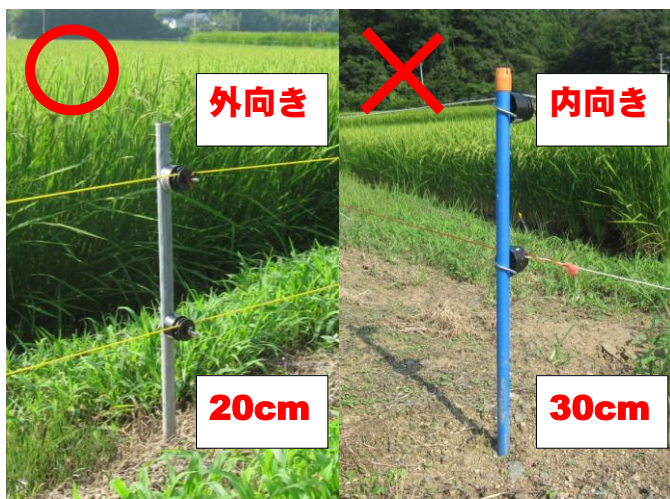
## 【電気柵は正しく設置】

電気柵を正しく設置していますか？イノシシ対策の電線の高さは、20cm と 40cm です。電線を固定するガイシを外に向け、イノシシが探った時に鼻が接触することが重要です。また、電線が草に触れると電圧は大きく低下します。除草を定期的に行い、イノシシの侵入を防止しましょう。

鳥獣被害対策に成功している集落は、「みんなで」「協力しながら」「継続して」実践しています。これからの時期、特に注意が必要なのは、収穫の残りやくずを放置しないことです。イノシシにとって、寒い冬を越すための貴重な栄養源となりやすいので、必ず処分しましょう！

各地でイノシシ対策の研修会が開催されていますので、鳥獣被害に負けない集落づくりのため、これらを参考に「みんなでできること」から行動を始めてみませんか。いわき市、JA、農林事務所へご相談ください。

### <電気柵の設置例>



### <藪の管理>



# 今年も、すべてのお米の放射性物質検査を行います。

- 26年産米も、県産米の安全性確保と一層の信頼向上のため、引き続き全量全袋検査を実施しますので、皆様には、御理解と御協力をお願いいたします。
- 出荷・販売する米はもちろんですが、自家用の「飯米」、親戚などに配る「縁故米」、食用となる「ふるい下米」など、県内で収穫されたすべての米が検査の対象です。
- この取り組みは多くの消費者から評価をいただき、県産米への信頼確保に役立ってきたものと考えております。

「福島県では米の全量全袋検査をしていますが、どう評価しますか？」に対して、

評価すると答えた方：89%

(福島県消費者団体連絡協議会「平成25年度放射能による風評等に関するアンケート」より)

## 26年産米検査のラベルは「緑色」です！



24年産米は青色

25年産米はピンク

※26年産米は緑色

- 26年産米の検査で使用する左の「バーコードラベル」は、地域協議会等から配付されますので、検査を受けるまでに必ずすべての米袋に貼り付けてください。
- 検査を行い、基準値以下であることを確認した米袋には、右の「検査済ラベル」が貼られます。

## いわき市産農産物の放射性物質による出荷制限品目

- いわき市産の農産物は、現在、10品目が出荷制限・自粛となっており、これらの品目は、直売所等に出荷できませんので注意してください。

品目	規制日	区分	品目	規制日	区分
野生きのこ	H23. 9.15～	出荷制限	ぜんまい	H24.5. 2～	出荷制限
原木なめこ(露地)	H23.10.31～	出荷制限	わらび	H24.5.10～	出荷制限
ユズ	H24. 1.10～	出荷制限	こしあぶら	H24.5.14～	出荷制限
たけのこ	H24. 4. 9～	出荷制限	クリ	H24.10.12～	出荷制限
たらめ(野生)	H24. 5. 1～	出荷制限	さんしょう(野生)	H25.5.15～	出荷自粛

これら品目については、放射性物質の自主検査結果が「基準値」以下であっても、国の制限が解除されるまでは出荷・販売ができませんのでご注意ください。

# 秋の農作業は安全に！

9月1日から10月31日は、「秋の農作業安全運動重点推進期間」です！

今年、県内では6件の農作業死亡事故が発生しています。これから収穫の時期に入り、農業機械を扱うことが多くなります。体調管理に十分注意し、無理のない安全な作業を心がけましょう。

## 【農作業前のチェック】

- ①機械の点検・整備はしているか
- ②体調は万全か（心配事はないか）
- ③作業計画に無理はないか
- ④機械に巻き込まれにくい服装か
- ⑤行き先を家族や近所の方に伝えているか
- ⑥緊急時に連絡が取れるように、携帯電話を持っているか

転落・転倒多発！！  
注意！！



# たい肥を利用しましょう！！

来年の作付に向け、土づくりを始めませんか。

現在、いわき市内で生産・販売されている堆肥は、放射性物質検査で安全性を確認したものであり、安心して利用できます。

美味しいお米や野菜を生産するためには、土づくりがかかせません。

たい肥を使ってみたい方は、お近くのJA窓口においてある「たい肥供給者リスト」を参考にしてください。



# 園児と交流「ふれあい農業講座」を開催



いわき農業青年クラブ連絡協議会は、8月22日（金）にいわき市立高坂保育所の園児66名とともに「ふれあい農業講座」を開催しました。

本講座は、いわき市の農業をもっと知ってもらうために毎年開催しており、今回はいわき市の農産物マスコットキャラクター「アグリ☆5」とのふれあいといわき昔野菜や旬の農作物の紹介でした。

その後、クラブ員が生産した野菜を使ったピザ作りを通して、園児との交流を図りました。園児たちは楽しそうにピザの具材を並べ、完成したピザを笑顔でおいしそうに食べていました。